

二〇二一年度

東京純心女子中学校

適性検査型Ⅰ

(特待生選抜を兼ねる)

注意

- 一. 解答は解答用紙に記入しなさい。
- 二. 問題文は上下二段になっています。

一

次の文章を読んで、あとの問題に答えなさい。

(*印のついている言葉には本文のあとに「注」があります。)

あなたは、人からなにか頼まれた時に、本当はイヤだと思っているのに、なかなか、断れなかったりしませんか？

本当は違うことをしたいのに、周りの人達の目が気になって、ぐつとガマンしたことはありませんか？

先輩の命令を聞きながら、「どうして、黙って先輩に従わないといけないんだろう？」と思ったことはありませんか？

もう返事を書きたくないのに、何度も何度もラインやメール、ダイレクトメッセージをやりとりしたことはありませんか？

なんとなくの「空気」や「雰囲気」にひっぱられて、本当にやりたいことができなかつたことはありませんか？

どうして、こんなに生き苦しいんだろうとため息をついたことはありませんか？

この本は、**あなたの生き苦しさの「ミツ」をあげ、楽になるための方法**を書いたものです。

(中略)

この国の文化と関係のある話をします。

あなたは、人の頼みを簡単に断れますか？

友達から何か頼まれた時、イヤなことはイヤだときっぱりと言えますか？

イヤだなあと思っているのに、なかなか「イヤです」とは言えなくて、ずるずると相手の言うことに従ったりしませんか？

この国では、なかなかイヤと言えない人が多いのです。

それも、あなたの弱さではなく、この国の文化と関係があるので。

昔、アメリカ人のスタッフと仕事をした時のことです。

①「〴〵をやってくれませんか？」と言うと、そのアメリカ人はにこやかに微笑みながら「できません」と答えました。

僕はびっくりしました。

普通、私達日本人が何かを断る時は、すぐつらそうな顔をするか、申し訳ないという悲しい顔をするか、すみませんという反省する顔をします。

でも、そのアメリカ人は、微笑みながら「NO」と言ったのです。

僕は衝撃を受けました。

そんな顔で「イヤです」と言う人を見たことがなかったので。

あんまり驚いたので、「どうして、微笑んでいるのですか？」と聞きました。

相手はキョトンとして「どうして微笑んでいたら変なの？」と逆に質問してきました。

僕は「だって、断るってことは、ストレスがたまりませんか？『NO』って言うのは、ハードルが高くないですか？」と答えました。

彼は、やっぱり、キョトンとしたまま、「できないことをできないということは、当たり前のことでしょう」とサラッと言いました。

それもそうだなと、僕は思いました。

でも、僕は、そしてたぶんあなたも、何かを頼まれて断る時は、とても苦しい気持ちになります。

申し訳ない気持ちになります。

そんな気持ちになりたくないから、なるべく、ムチャだと思ふ頼みごと、聞こうとしてしまいます。

どうしてなんだろう？ と思いました。

イヤなことをイヤと断るだけで、どうしてこんなに苦しいのだろう。よく考えたら、変です。

だって、自分はイヤだと言っているだけなのです。

なのに、僕だけじゃなくて多くの日本人は「イヤです」と言うことにス

トレスというか、抵抗を感じるのです。

それ以降、僕は、外国人が断る時の表情をよく観察するようになりました。

じつに、自然に「イヤです」と言っているように感じました。できないことはできない。イヤなことはイヤ。ムリなことはムリ。そんな当たり前のことを言っている様子でした。

どうしてなんだろうと考え始めました。

そして、「世間」と「社会」という考え方にたどり着きました。

この二つが、この国の文化を理解する重要なヒントなのです。

「世間」という言葉を聞いたことがあるでしょうか？ ひよっとしたらないかもしれませんね。

「社会」はありますね。科目にもなっていますが、その意味ではありません。

今から、「世間」と「社会」とは何かという説明をします。

少し長い話になります。

「どうしてこんなことを読まないといけないのだろう」と思うかもしれません。

でも、あなたの生き苦しさ「世間」と「社会」は密接みっせつに関係しているのです。

「世間」と「社会」という二つの言葉を理解すると、あなたの生き苦しきのヒミツがよく分かるようになるのです。

この二つの言葉は、大事なキーなのです。どうか、ガマンして、読み続けて下さい。決して、難しい話ではありませんから。

「世間」というのは、あなたと、現在または将来、関係のある人達のことです。

具体的には、学校のクラスメイトや塾じゅくで出会う友達、地域のサークルの

人や親しい近所の人達が、あなたにとって「世間」です。

「世間」の反対語は、「社会」です。

「社会」というのは、あなたと、現在または将来、なんの関係もない人達のことです。

例えば、道ですれ違った人とか、電車で隣となりに座っている人とか、初めていくコンビニのバイトの人、隣の学校の生徒などです。

②日本は「世間」と「社会」という、二つの世界によって成り立っているのです。

(中略)

*『cool japan』に出演しているブラジル人が、ある日、僕に言いました。

「日本人は本当に優しい人達だと思う。3・11の東日本大震災だいしんさいの時、みんなが助け合っていた。私の国だったら、コンビニが襲おそわれたり、交通が乱れてパニックになっていただろう。でも、日本人は、そんなことはなかった。素晴らしい」

ところが、数日後、彼は戸惑とまどった顔をして僕に言いました。

「今日、ベビーカーを抱かかえた女性が、駅の階段を上ろうとしていた。彼女は、ふうふう言いながら、ベビーカーを抱かかえていた。信じられない。私の国なら、すぐに彼女を助けて、ベビーカーを代わりに持ってあげるだろう。どうして日本人は彼女を助けないのか？ 日本人は優しい人達じゃなかったのか？」

どうして助けないのか、日本人のあなたなら、その理由は分かるでしょう。

日本人は冷たいからか？ 違いますよね。

ベビーカーを抱えている女性は、あなたにとって「社会」に生きる人だ

からですよね。

つまり、あなたと関係ない人だから、あなたは手を貸さないので。いえ、貸せないと書いてもいいです。他人には声をかけにくいのです。

もし、その女性が、あなたの知っている人なら、あなたは間違いなく、すぐに助けたでしょう。

冷たいとか冷たくないとか、関係ないのです。

私達日本人は、自分と関係のある「世間」の人達とは簡単に交流するけれど、自分と関係のない「社会」の人達とは、なるべく関わらないようにしているのです。

というか、より正確に言えば、関わり方が分からないのです。

(中略)

驚くことに、ほとんどの外国には、「世間」はありません。「世間」は、とても日本的なのです。

欧米をはじめとしたほとんどの外国は、「社会」しかありません。

つまり、自分が知っている人達と知らない人達を分けないのです。

エレベーターに乗ると、日本人は、全員が沈黙したまま、決して目を合わせず、じつとドアの上に表示された階数の数字を見つめています。

僕もあなたもそうします。

お互いが他人で、「社会」に住む人達だから、会話できないのです。会話するつもりもないと言ってもいいし、エレベーターの中でどんなふうに話しかけたらいいか分からないと言ってもいいでしょう。

欧米では、エレベーターの中で、必ず、目礼か会釈か会話が始まります。

知らない者同士が会話することが当り前の「社会」に生きているからです。エレベーターのような狭い空間で、とても近い所に人が立っているのに、黙っている方が不自然に感じるので。

彼ら・彼女らは、日本に来て、全員が斜め上を向いたまま沈黙している

エレベーターを経験して、驚くのです。

また、欧米では、デパートやお店でドアを開けて入る人は、必ず、後ろを見て、後から入ってくる人がいるかどうか確認します。

そして、すぐ後ろに続いて入ってくる人がいると、ドアを軽く手で支えて、次の人が入りやすいようにします。

その後ろの人もまた、後に続く人がいたら、同じことをします。

「社会」に生きているので、後に続く「社会」の人を意識しているのです。

日本だと、こんなことをする人はめったにいません。

後に続く人は「社会」の人なので、無視していい人達なのです。もちろん、後ろから同じ「世間」に住む仲間が続いていたら、ドアを手で支えて、入りやすくします。

「世間」に住む人だから、当然なのです。海外に行くと、このドアのちょっとした心配りに感動します。

また、英語を話す国々では、電車の中や道で、ちょっとしたでもぶつかったり、肩がふれたりすると、すぐに「エクスキューズミー」の言葉が出ます。フランスなら「パルドン」です。「すみません」の意味です。

お互いが知らない「社会」に住む人だからこそ、丁寧に謝ろうとするのです。

そうしないと、いきなり、ケンカが起こる可能性があります。

日本では、都会では、軽く肩がぶつかったり、ちょっと足を踏んでも、誰も何も言いません。

小さな田舎で、お互いが「世間」に住んでいる時は、丁寧に謝ります。でも、都市で、相手のことを知らない「社会」に住む人同士だと、軽くぶつかったぐらいだとお互い、何も言わないのです。

これもまた、「礼儀正しい日本人」のイメージを持って日本に旅行に来た

外国人が驚くことです。

海外旅行に行ったことはありませんか？

まだなら、なるべく早く、海外に行くことを勧めます。

いろんな国に行き、いろんな風景を見て、いろんな文化を見ることは、自分が生きている国や街、文化を相対的に見ることに役立ちます。

「相対的」というのは、自分の生きている状況が唯一、絶対ではないと分かるということです。

③自分の今の状況はたったひとつの正解ではないんだという考えは、生き苦しさから私達を救ってくれます。

数年前、ツイッターで「なぜ勉強するのか？」という質問に対する親の答えが話題になっていました。

勉強をなぜするのか親に訊いたときに、コップを指して「国語なら『透明なコップに入った濁ったお茶』、算数なら『200mlのコップに半分以下残っているお茶』、社会なら『中国産のコップに入った静岡産のお茶』と色々な視点が持てる。多様な視点や価値観は心を自由にする」というようなことを返された

素晴らしい答えでした。

「多様な視点や価値観は心を自由にする」ということが「相対的に考える」ということです。

私達は、苦しくなると、モノの見方が狭くなってきました。「もうこの解決方法しかない」とか、「これをやるしかない」「他にどうしようもない」と思い込みがちになります。

そういう時、他の文化を知っていれば、いろんな考え方、見方ができるのです。

それは、まさに「心を自由」にします。

(鴻上尚史『「空気」を読んでも従わない』より。)

なお、本文には省略等があります。)

[注] 『cool japan』 — 筆者が出演しているテレビ番組。

〔問題1〕

傍線部①「くをやってくれませんか？」く僕はびっくりしました。について、筆者がアメリカ人のこのような応答に対して驚いたのはなぜですか。本文の内容をふまえてその理由を解答欄の枠の中にまとめなさい。

〔問題2〕

傍線部②日本は「世間」と「社会」という、二つの世界によって成り立っているのです。と筆者は述べていますが、この「二つの世界」の違いを、人との関わり方にふれながら、一〇〇字以上一二五字以内で説明しなさい。なお、や。や「なども、それぞれ字数に数えます。」

〔問題3〕が次のページに続きます。

〔問題3〕

下線部③ 自分の今の状況はたったひとつの正解ではないんだという考えは、生き苦しさから私達を救ってくれます。と筆者は述べています。「世間」で「生き苦しさ」を感じる日本に住む私たちが、「心を自由」にして生きていくために、あなたはどうすればよいと思いますか。次の「決まり」にしたがって、具体例を示しながら、四七五字以上五二五字以内であなたの考えを述べなさい。

〔決まり〕

- 最初の行から書き始めます。
- 各段落の最初の字は一字下げて書きます。
- 段落をかえたときの残りのます目は、字数として数えます。
- 、や。や「なども、それぞれ字数に数えます。

